

人文社会学部 言語文化学科 中国語アジア文化専攻

教育目的

地理的・歴史的につながりの深い日中関係は、今後ますます拡大すると予想され、その結果として、中国語の需要も高まろう。世界的な中国語ブームの中、「中国語のできる日本人」は今後いっそう必要とされ、活躍の場は開かれていると言えよう。

本専攻のカリキュラムは、語学（中国語）と文化（東アジアのほかインド・イスラムを含むアジア文化）との二本柱で構成されている。徹底した語学教育により、高い中国語運用能力を目指す。それとともに、中国文化を中心とし、日中関係など東アジア、さらには仏教など広くアジアを視野に入れた異文化理解を目指す。

本学の建学の祖である聖徳太子は、和の理念のもと、遣隋使を派遣して中国との交流を進め、仏教をはじめ大陸文化の理解導入に努めた。本専攻ではこの精神を受け継ぎ、中国語とアジア文化理解、それを通じた国際感覚と和の心の育成、これを教育の目的とする。

到達目標

語学においては、中国語能力検定（中検）・漢語水平考試（HSK）を客観的な目安として次のように到達目標を設ける。すなわち、1年次には中国語の基礎であるピンイン・発音を習得し、中検4級の能力に達する。2年次には前期末に中検3級（或いはHSK3級）、後期末にHSK5級に達する。3年次以降は留学などにより個人差も出ようが、全体では3年次末にHSK6級到達を目指す。2年次までは総合、3年次以降は会話・作文など分野別に向上を図る。

文化においては、1年次は「アジア文化概説」により基礎的な理解を得る。2年次以降は、「中国史」や「日中交流史」など東アジア理解を目的とする授業が多くなる。確かに、日中は東アジアに属しながら言語・文化が異なり、異質さを知ることは大切。しかしインド等を視野にすれば、東アジアの同質性にも気づくであろう。中国・東アジアへの複眼的理解を得るためにも広くアジア文化への理解を深める。

履修の仕方

語学について、1年次は「中国語初級」が必修なので全員が履修すること。「中国語初級総合Ⅰ・Ⅱ」は選択科目だが、「初級」の補助的な内容で、かつ中検対策の性格をもつので履修することが望ましい。2年次の「中国語中級総合Ⅰ・Ⅱ」も同様の理由で履修することが望ましい。「中国語会話」「中国語作文」など語学の科目は選択科目だが、語学力向上のためにも履修すること。また、「文献講読」も選択科目だが、内容が違えば繰り返し履修が可能なので、読解力向上のためにできるだけ履修すること。3年次以上の「講読演習」は言語・歴史・古典などの分野から一つ選んで、より専門的な学修を行うもので、2年次末に分野を決める予定。

文化については、1年次の「アジア文化概説Ⅰ～Ⅳ」が必修であるほかは、すべて選択科目であるから、自由に選択すればよい。ただし、上記「到達目標」に記したとおり、中国や我々の住む東アジアを複眼的に見るためにも、偏りのない履修をすることが望ましい。